



一日灯台長の南谷瀬空 君



ジオクイズでは熱いバトル



東通小ソーラン舞による宣誓



大盛況の12市町村特産市

青森公立大学よさこいサークル
影飛威 Sea

風舞翔吹



「信夫」(砂子又郷友会)



「平獅子」(小田野沢神楽会)



「手踊り」(蒲野沢青年会)

ヨー」が会場を魅了。続く東通村プレミアム付き商品券購入者限定「かんだちくんクジ大抽選会」で、悲喜こもごも会場は盛り上がりを見せました。

そして、昨年に引き続き「東通村演芸会」が開演。村内各地区の青年団等による勇壮華麗な舞が宵祭の最後を飾り、霧雨が続きあいにくの天気にも関わらず観客席からは惜しみない大喝采が贈られました。

翌30日は晴天に恵まれ、朝早くから昨年を上回る大勢の観客が押し寄せる中、「よさこい下北」が開催されました。オープニングセレモニーでは越善靖夫会長による開会の挨拶があった後、東通小学校6年生の伊勢田稜(いせだりよ)の宣誓がありました。

今年は「青森公立大学よさこいサークル影飛威Sea(エイピーシー)」が初参加するなど、村内外から13チームが参加。庁舎前道路で熱気溢れる流し踊りを披露しました。また午後は、ふるさと広場ステージでの演舞が観客を魅了。恒例の「よさこい鳴子踊り」で会場全体が一体となりながらフイナレを迎えました。

その後「ベゴ屋のカッチャお笑いステージショー」が笑いを誘った後、東通村郷土芸能保存連合会による「郷土芸能特別公演」が開演。能舞をはじめ5演目が披露され、改めて「能舞の里」東通村を知らしめました。

また、30日正午には、東通牛の丸焼き販売会が行われ、長蛇の列がその人気ぶりをうかがわせました。

今年も両日にわたり大盛況を博したひがしどおり来さまいフェスタでした。